

今日のキーワード 今年を振り返るキーワード⑤「資源価格」(グローバル)

原油をはじめとする「資源価格」は原材料費や輸送費など、経済の幅広い領域に影響を及ぼすため、景気の動向を見るうえで重要な指標となります。その「資源価格」は2014年半ば以降、下落が続いていましたが、16年の年初によく底入れし、上昇に転じました。「資源価格」の上昇は物価の押し上げ要因となり、金融政策にも影響を及ぼす可能性があるだけに、今後の動向が注目されるどころです。

ポイント1 原油価格は上昇
1バレル当たり50ドル台を回復

■原油価格の代表的な指標のひとつWTIの価格は、16年2月の1バレル当たり26ドル台を底として上昇に転じ、年央には同50ドル近傍まで戻しました。6月の英国投票での欧州連合(EU)離脱選択などを受けて下落しましたが、その影響が一巡した後は下値を切り上げる展開となっています。

ポイント2 産油国が減産で合意
CRB指数も上昇

- 原油需給は緩和の状態が続いていますが、①産油国間で協調減産に向けた動きが台頭し、12月にはOPEC(石油輸出国機構)と非加盟国との間で、01年以来15年ぶりとなる協調減産の合意が成立した、②北米のシェールオイルの生産減少が続いた、などが評価されたと考えられます。
- エネルギー以外でも、銅、アルミといった非鉄金属の価格上昇が目立ちました。特に11月以降はトランプ氏の米大統領選挙勝利で、景気刺激策発動への期待が高まったことなどが価格上昇を支えました。
- エネルギーや農産物、非鉄金属など国際商品の値動きを示す代表的指数トムソン・ロイターズCRB指数も、14年半ばからの下落に歯止めがかかり、持ち直して転じています。



(注) データの期間は2016年1月4日～12月28日。原油価格はWTI、商品価格はトムソン・ロイターズ・コアコモディティーズCRB指数。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 需要増、生産抑制で原油価格は堅調な展開が見込まれる

- 国際エネルギー機関(IEA)によれば、17年の世界の原油需要は日量130万バレルほど増加する見通しです。米国のシェールオイルの生産動向にもよりますが、当面は協調減産合意による需給改善期待から原油価格は堅調に推移すると考えられます。
- 中国、米国経済が持ち直してきたことから、非鉄金属の価格についても底堅い展開が見込まれます。ただし、世界経済の拡大ペースは緩やかと予想されること、米ドル高が進行していること、などを踏まえると、上値の余地は限定的と考えられます。

ここもチェック! 2016年12月27日 2017年の米国経済及び株式・債券市場の見通し
2016年12月22日 2017年中国経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。